

学生等で構成される北九州市ピースフィールドクラブが企画・立案した
門司空襲を体験した方の目線からたどるワークショップを開催します

1945（昭和20）年6月29日深夜、アメリカ軍の約90機にのぼるB29が門司の上空から大量の焼夷弾を投下しました。この「門司空襲」により、門司港は一夜にして焼け野原と化し、多くの死傷者を出しました。

今回、北九州市平和のまちミュージアムでは、「門司空襲」を体験した岸本満寿恵さん（91歳（当時11歳））を囲み、空襲の前日から当日、そして翌日までの足取りを、当時の地図に時系列に沿って書き込みながら、「門司空襲」の実相を「ある少女（岸本さん）」の目線からたどるワークショップを開催します。

なお、このワークショップは『北九州市ピースフィールドクラブ』が企画・立案し、実施するものです。ぜひ取材方お願いいたします。

記

- イベント名 『～門司空襲～ある少女の足跡をたどるワークショップ』
- 日時 令和7年1月19日（日）10：30～12：00頃
- 会場 北九州市平和のまちミュージアム 多目的ホール（小倉北区城内4-10）
- プログラム
 1. 岸本さんの紹介
 2. 岸本さんの戦争体験 朗読
 3. ワークショップ
 4. 質疑応答
 5. 記念撮影

※ワークショップ終了後、岸本さん及びピースフィールドクラブのメンバーへのインタビューが可能です。
※岸本さんはご高齢のため、体調不良等により急遽中止となる場合があります。ご了承ください。

<岸本満寿恵（きしもと ますえ）さん>

1933（昭和8）年生まれ（91歳）。平成27年、戦後70周年を記念し、北九州市が発行した『後世に語り継ぐ北九州市民の戦争体験』において、門司空襲における壮絶な体験をつづつた『孫達へ、「こんな時代もあったのよ』』を寄稿いただきました。

また、当ミュージアムで現在放映している『北九州～戦争の記憶～2 私たちの約束』にも出演。戦中・戦後の混乱期の自らの体験や、平和への思いを語っていただいています。



<北九州市ピースフィールドクラブ（愛称“ピーフィ”）>

北九州の歴史や文化、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さなどについて学び、様々な視点から「平和」について考え、仲間と共に市内外の多くの人と繋がり、自ら行動・発信する人材育成を目的に令和6年度、平和のまちミュージアムが設立した団体です。

（メンバー：中学生7名、高校生5名、大学生11名、社会人1名 計24名）



【問い合わせ先】

総務市民局平和のまちミュージアム事務局

担当：居蔵（事務局長）、三角（企画係長）、鈴木

電話：093-592-9300